

国土交通省一品確法に関わる6物質
厚生労働省指針13物質
文部科学省基準6物質
非配合

F★★★★★相当 **環境配慮型**

防水材塗替え用プライマーに 待望の水性プライマー登場!!

環境配慮型ウレタン防水改修用プライマー

塗替えプライマーエコ

環境に配慮した水性塗替え用下塗り材です。

旧ウレタン塗膜防水だけでなく

合成ゴム(加硫ゴム)シート防水の塗替えにも強力に密着!

■ 用途

ウレタン塗膜防水材の
塗り替え

防水材トップコート
塗り替え

合成ゴム(加硫ゴム)
シート防水の
トップコート塗り替え

■ 気温別可使時間及び上塗可能時間

	10℃	23℃	30℃
可使時間	2~3時間(厳冬型)	2~3時間(一般型)	2時間(一般型)
上塗可能時間	5~24時間	4~24時間	3~24時間

※厳冬型:使用範囲5℃~15℃ 一般型:使用範囲15℃~30℃

■ 容量・配合比・使用量・塗装面積

容量			配合比		標準使用量 (kg/m ² 回)	標準塗装面積 (m ² /缶)
A液	B液	セット	A液	B液		
1kg	10kg	11kg	1	10	0.1~0.15 ^{※3}	1回塗りで73~110m ²
0.3kg	3kg	3.3kg				1回塗りで22~33m ²

■ 下地に対する密着性

下地の種類	密着性
ウレタン防水材	○
合成ゴム(加硫ゴム)シート防水材	○ ^{※1} ○ ^{※4}
砂付きアスファルトルーフィング ^{※2}	○ ^{※1}
塩ビシート防水材	×

※1 上塗は水性トップコートのための仕様に限ります。

※2 脆弱な砂付きアスファルトルーフィングへの施工はおやめ下さい。

※3 砂付きアスファルトルーフィングの場合、標準使用量は0.2~0.3kg/m²です。

※4 加硫ゴム系のカラーシートの場合は密着力が劣る為、塗装は避けて下さい。

■ 上塗可能製品

	商品名	旧塗膜	上塗適性
防水材	フローン#11	○	○
	フローン#12	○	○
	フローン01	○	○
	フローン#12 エコ	○	○
	エコフローン	○	○
	フローン速乾110	○	○
	フローン無機防水α	○	○
	フローン無機防水HG	○	○
トップコート	スーパートップ遮熱	○	○
	弾性トップ14	○	○
	エコトップ遮熱・エコトップ(遮熱)シートトップ100・200	○	○
	シートトップ100シルバー	×	○
処理材	フローンシーリング	○	○

※上塗可能製品の詳細は各商品のカタログをご参照下さい。

■ 標準施工仕様

旧ウレタン塗膜層の場合

工程	材 料	使用量 (kg/m ²)	上塗可能時間 (23℃)	備 考
1	素地調整 (ウレタン系下地)	—	—	ゴミ、ホコリ等の異物は、完全に除去。
2	塗替えプライマーエコ	0.1~0.15	4~24時間	A液:B液=1:10(重量比)の割合で混合し、電動攪拌機にて攪拌後、中毛ローラー、刷毛にて塗布。
3	各種防水材	—	—	弊社防水材カタログを参照して下さい。

合成ゴム (加硫ゴム) シート防水材の場合 砂付きアスファルトルーフィングの場合

※水性トップコートのための仕様です。溶剤系トップコート及び各種防水材は施工しないで下さい。

工程	材 料	使用量 (kg/m ²)	上塗可能時間 (23℃)	備 考
1	素地調整 (シート防水層)	—	—	ゴミ、ホコリ等の異物は、完全に除去。
2	塗替えプライマーエコ	0.1~0.15 ※3	4~24時間	A液:B液=1:10(重量比)の割合で混合し、電動攪拌機にて攪拌後、中毛ローラー、刷毛にて塗布。
3	各種水性トップコート	—	—	弊社トップコートカタログを参照して下さい。

※3 砂付きアスファルトルーフィングの場合、標準使用量は0.2~0.3kg/m²です。

■ 施工上の注意事項

- 旧塗膜または、異物付着等の下地処理については、当社までご連絡下さい。
- 他社製品を上塗りする場合には、充分テストの上ご使用下さい。
- ゴミ、ホコリ等の異物は施工前に清掃を行い、完全に除去して下さい。
- 配合比は、重量比でA液:B液=1:10ですので、計量には必ずハカリを使用して下さい。混合する時は必ず電動攪拌機を使用して下さい。この時、A液缶中の残りのA液は、B液を入れ、よく振ってB液に溶かし再度混合、攪拌して下さい。
- A液は、キャップ口からのみの添加では、規定量を配合することは困難です。フタ部を開放してゴムペラ等でかき出すように取り出して下さい。
- 旧塗膜防水層にフクレ、ハガレ等の欠陥が生じている場合は、カッターナイフ等を使用し、除去。素地を乾燥させ、塗替えプライマーエコを数回塗布後、フロンシーリングもしくはフロン防水材にて充填し、ガラスクロスにて補強して下さい。
- 旧塗膜防水層に破断等の欠陥が生じている場合は、カッターナイフ等で旧塗膜の一部を除去し、素地の構造クラックをVカッター等でUカットして乾燥させ、塗替えプライマーエコを塗布後、フロンシーリングにて処理し、ガラスクロスにて補強して下さい。
- 旧塗膜防水層にトップコートがある場合は、トップコートの密着の有無を確認後、密着不良のトップコートを除去し、塗替えプライマーエコを塗布して下さい。
- 乾燥時間は、気温・湿度・風により異なります。推奨施工時間は午前9時~午後3時までです。
- 気温5℃以下、湿度80%以上では施工しないで下さい。また硬化時間、硬化後の性能は、施工時の温度に大きく影響されます。寒冷地で施工する場合は、気温が5℃以上の暖かい日の午前中に施工し、塗膜を充分乾燥させて下さい。
- 塗替えプライマーエコを塗布後、24時間(23℃)以上経過しますと、上塗りが層間剥離を起こす恐れがありますので、24時間以上経過した場合には、目荒らしを行い、再度、塗替えプライマーエコを塗布してから上塗りを施工して下さい。(施工直後に降雨にあった場合も同じ)
- 混合したプライマーの可使時間は2~3時間(23℃)ですので、可使時間以内に作業を終了して下さい。可使時間を越えたプライマーを塗布すると、密着不良等、塗膜に欠陥を生じますので、絶対に使用しないで下さい。
- 塗装後、降雨あるいは降雪等の恐れがある場合は、施工を避けて下さい。
- 夜露、結露等発生する恐れがある場合は、施工を避けて下さい。また被塗物が結露している場合は、ウエス等で拭き取り、乾燥してから作業を行って下さい。
- 金属部への塗装は避けて下さい。また、被塗面のまわりに金属部がある場合は、塗料が付着しないように養生を行って下さい。
- 動植物に影響を及ぼす可能性がありますので、施工時及び施工後の換気を充分に行って下さい。

■ 取扱い上の注意事項

- 開缶後は、速やかに使い切ってください。
- 材料は、冷暗所に保管して下さい。また、施工現場での保管は、雨等が当たらないようにし、外部の野積みは避けて下さい。
- 眼に入った場合は、多量の水で洗い、できるだけ早く医師の診察を受けて下さい。
- 直接皮膚に触れないよう充分注意して下さい。もし触れた場合は、ウエス等で十分に拭き取り、中性洗剤で洗って下さい。
- 材料の保管、取扱いについては、消防法、労働安全法、その他に基づき十分な管理をお願いします。
- 塗料、塗料容器、塗装具を廃棄する時は産業廃棄物として処理して下さい。

※アレルギー性等の特異体質、皮膚過敏症や呼吸器系疾患を有する人は、取扱いを避けて下さい。(呼吸困難や喘息を引き起こす恐れがあります。)

容器に表示されている注意事項をご参照の上、安全に施工して下さい。

詳細な内容が必要な場合には、製品安全データシート(MSDS)をご参照下さい。

●お問い合わせは……



東日本塗料株式会社



本 社 / 〒124-0006 東京都葛飾区堀切3-25-18 TEL.03(3693)0851(代) FAX.03(3697)2306
 埼玉工場 / 〒347-0017 埼玉県加須市南篠崎1-13 TEL.0480(65)1515(代) FAX.0480(65)1518
 仙台営業所 / 〒983-0045 仙台市宮城野区宮城野1-4-20 TEL.022(291)7372(代) FAX.022(291)7320
 新潟営業所 / 〒950-0871 新潟市東区山木戸3-7-9 TEL.025(273)5749(代) FAX.025(274)6730
 静岡営業所 / 〒422-8037 静岡市駿河区下島128-1 TEL.054(238)8061(代) FAX.054(238)8063
 北海道出張所 TEL.090(8586)2214 FAX.03(3697)2306



※製品改良のため、予告なく仕様、性能、カタログ内容を変更する場合があります。
 ※諸官公庁等の特記仕様がある場合には、それを最優先して下さい。

URL <http://www.hnt-net.co.jp>

CATALOG NO.5 '15.11.3000